

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	独語第一		
英文授業科目名	Elementary German I		
開講年度	2004年度	開講年次	1年次
開講学期	1学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I I		
開講学科・専攻	システム工学科		
担当教官名	齋藤 智志 (学内連絡教官 坂本 真樹)		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ
saitohsa@xa2.so-net.ne.jp	

【主題および達成目標】
ドイツおよびドイツ語圏の国々の文化や歴史に触れつつ、ドイツ語の基礎的な文法や表現の習得を目指します。独語第二が終了する一年後には、簡単な文章の読み書きができるようになっているはずです。

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

【教科書等】
教科書：大岩信太郎著『純・初級ドイツ文法』（同学社）辞書：辞書は当然必要です。始めて学ぶ言語においては、辞書の引き方も重要な学習事項です。収録語数が5万語以上の独和辞典を選んで下さい。

【授業内容とその進め方】
扱う文法事項は以下の通りです。1単元を2回程度で終わらせます。1．発音と数字 2．動詞の現在人称変化、主文の語順、並列接続詞 3．定冠詞と名詞の格変化、定冠詞類 4．不規則変化動詞、副文の語順と従属接続詞 5．不定冠詞と名詞の格変化、人称代名詞の格変化、不定冠詞類 6．前置詞、名詞の複数形 文法の解説を終えた単元の問題演習を翌週までの宿題とします。したがって、ほぼ毎週（量はそれほど多くはならないはずですが）宿題が出ると考えてください。また、ドイツおよびドイツ語圏の国々の文化や歴史に関して、学生諸君に発表をしてもらいます。人数が多ければ班を編制し、一月に一人（ないし一班）ぐらいのペースで発表してもらう予定です。

電気通信大学 平成16年度シラバス

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

1. 成績評価 = 出席を含む平常点 (30%) + 学期末のテスト (70%) なお、ドイツ文化に関する発表は、独語第一の授業だけでは全員に回らないので、独語第二でも継続して行うこととし、その点数は独語第二の成績に組み入れます。2. 評価基準: 1 で示した式の合計点が60以上であること (ということは授業内容の六割が理解できたということ) を合格の最低基準とします。

【オフィスアワー: 授業相談】

特に設けません。質問等は電子メールで受け付けます。

【学生へのメッセージ】

大学は「自ら」学ぶ場所です。諸君はその「権利」を得たのです。ジャンルを問わず貪欲に知識を吸収してください。

【その他】